

日本テコンドー協会（J T A）試合法

小学生（男女）組手テコンドー・ルール

2015年11月15日
日本テコンドー協会
宗師範 河 明生

幼い頃から日本テコンドー協会（以下、J T A）に入門し、地道に昇級昇段を果たした小学生蹴士は、理想とする華麗な蹴り技の名手として成長しつつある未来のJ T Aチャンピオン候補である。我が全日本大会における小学生組手部の活性化が、競技能力向上をはかる上で重要な課題となっている。小学生時代に人格の基礎が涵養されると言われている。親や教師等からいかなる教育や躰を施されるかによって人格が決定づけられる。最近の小学生はゲーム汚染され、体力が著しく低下してひ弱になっている。「J T A小学生組手テコンドー・チャンピオン」の称号を目指す過程で心身共に鍛えられると信じる。学業はもとより、明るく前向きな人格形成にもつながると考えられる。組手を通じて諦めない・くじけない強い心、痛さを知り弱い者をいじめない正義心等を涵養することもできる。ここに全日本大会および予選会における小学生男女組手ルールを定める。

記

第1条 基本ルール

- 1, 小学生組手は、蹴美を重んじるJ T A小学生ライトコンタクト・テコンドー・ルールとする。
- 2, 安全性を担保するため次の防具を着用しなければならない。
 - 1) 青または赤のヘッドギア
 - 2) 青または赤の手足のテコンドー防具
 - 3) 青または赤の胴防具
 - 4) 白のスネサポーター
 - 5) 男子は白のファールカップ
- 3, 突きの禁止
小学生は蹴り技のみで勝敗を決しなければならない。
蹴りを活かすための突き、牽制のための突きも禁止する。
- 4, 試合時間
 - 1) 試合時間は本戦1分とする。
 - 2) 延長戦は1分とする。ただし、延長戦は1回までとする。

第2条 有効技

- 1, 有効打と認められる蹴り技は次の通りとする。
 - 1) 上段（ヘッドギア）への蹴り技
 - ①踵落とし蹴り
 - ②飛び踵落とし蹴り（身長差があるため認める）

ただし、2016年度公式戦（2015年12月以降）より次の蹴り技も認める

- ②前蹴り
- ③横蹴り
- ④捻り蹴り
- ⑤それ以外の蹴り技は試合内容を参考としながら追加あるいは禁止する。

2) 中段（胴防具）への蹴り技

- ①踵落とし蹴り
- ②前蹴り
- ③横蹴り
- ④捻り蹴り
- ⑤後ろ横蹴り
- ⑥後ろ捻り蹴り
- ⑦後ろ蹴り
- ⑧押し蹴り
- ⑨飛び前蹴り
- ⑩飛び横蹴り
- ⑪飛び捻り蹴り
- ⑫飛び後ろ横蹴り
- ⑬飛び後ろ捻り蹴り
- ⑭飛び押し蹴り

2、勝敗を明確にすべく審判は次の判定を下すものとする。

1) 蹴美技あり

- ①主審は蹴美技ありを宣言できる。

例えば、飛び後横蹴りが中段の胴防具に決まり、相手選手が蹴りの方向・後方に転倒した場合
ただし、相手選手のダメージが重い場合は反則負けになる場合もある。

踵落とし蹴りが最上段に決まり、相手選手が蹴り足が落ちる方向・真下に座り込んだ場合
ただし、相手選手のダメージが重い場合は反則負けになる場合もある。

- ②主審の技あり宣言は、副審2名の同意が必要となる。
2名の同意が得られない場合、有効となる。

- ③技あり2本でTKO勝ちとなる。

2) 蹴美有効

- ①主審は蹴美有効を宣言できる。

例えば、美しい飛び後横蹴りが胴防具に決まり、相手選手の胴体が蹴りの方向にのけ反った場合
美しい踵落とし蹴りが相手選手のヘッドギアに決まった場合

- ②主審の蹴美有効宣言は、副審1名の同意が必要となる。
同意が得られない場合は無効となる。

- ③蹴美有効2本で蹴美技ありとなる。従って蹴美有効4本でTKO勝ちとなる。

第3条 反則技と失格

1、反則技

①突きはすべて禁止する。

②遠心力がかかり後遺障害が懸念される回し蹴り及び後回し蹴りは飛び蹴りも含めすべて禁止する。

③その他反則技は、成年部ライトコンタクト・テコンドー・ルールに準じるものとする。

2、上記の禁止技をはなった場合、故意・過失にかかわらず主審は次の判定ができる。

①減点

イ、主審の減点は、副審の同意を必要としない。

ロ、副審は減点を主審に請求できる。試合を中断しもう一方の副審の同意があれば減点とする。

ハ、減点2で失格とする。

②注意

イ、主審の注意は、副審の同意を必要としない。

ロ、副審は注意を主審に請求できる。試合を中断しもう一方の副審の同意があれば注意とする。

ハ、注意2で減点1となる。従って注意4で減点2となるので失格とする。

3、それ以外は、JTA試合法、とりわけJTAライトコンタクト・テコンドー・ルールを準用する。

本法は2015年11月28日より施行する。